

第61次安房地方教育研究集会

教育相談

気になる子への効果的な支援のあり方を探って

— 構成的グループエンカウンターの活用から —

1. テーマ設定の理由
2. 研究の目的
3. 研究の方法
4. 実践
5. 成果と課題
6. まとめ

安房支部

鋸南町立勝山小学校 仲山 道子
南房総市立岩井小学校 福田 恵子

研究テーマ

気になる子への効果的な支援のあり方を探って — 構成的グループエンカウターの活用から —

1. テーマ設定の理由

(1) 現代的課題

21世紀は新しい知識・情報・技術にもとづく知識基盤社会・グローバル化社会であり、国際競争が加速する一方、異文化・文明の共存・国際協力の必要性が増大するといわれている。学習指導要領では「生きる力」を育むことを大きなねらいとしており、発達段階に応じた指導に配慮し、教育活動全体を通じて体験活動を重視することが求められている。

(2) 子どもの様子

子どもたちの様子を見ると、学校では、上手に仲間と関わるができなかったり、トラブルが起きたときに解決しようとする力が不足していたりする。

放課後の様子を見ると、習い事や塾通いもあり、地域で遊ぶことも難しくなってきた。

家での遊びも、テレビゲームや携帯電話や携帯メールに時間を費やすことが増え、顔を合わせてのコミュニケーション・体を動かす体験が不足している。

少子化により、家族の中で大切にされる子どもたちがいる一方、家族との関わりが希薄になっている子どもも少なくない。

(3) 気になる子

今回私たちの考える「気になる子」とは「教員がサポートしてあげたい子」のことである。とりわけ大きな問題を抱えているわけではないが、教員の支援や集団の力で変容が期待できるであろう子を対象としている。

(4) なぜ構成的グループエンカウターなのか

エンカウターとは、自己開示・自己受容によって一人一人の世界の受け止め方を肯定することである。変化が激しくいろいろな価値観がひしめく国際社会・グローバル化社会において、客観性や普遍性にとらわれないという点では有効であるといえる。

また、構成的グループエンカウターは、集団学習体験を通して、行動の変容と人間的な自己成長をねらっている。その対象は、パーソナリティも健全であり、特に困った問題をかかえているわけでもない人たちとなっている。

学級などの集団に対して行う構成的グループエンカウターは、これまでもいろいろなところで実践されてきている。だが今回は、構成的グループエンカウターが、子どもにとっても教師にとっても、その活動を通して自分や子どもたちの見方を変えていくものであるということや、「一人一人の子どもに焦点を当てて」という教育相談的見地からそのような取り上げ方を行うこととし、本テーマを定めた。

2. 研究の目的

- 構成的グループエンカウンターを用い、気になる子どもの変容を促し、より良い学級集団を作る。

3. 研究の方法

(1) 理論と方法について学ぶ

(2) 各学級で実践する

- 気になる子に計画的に構成的グループエンカウンターを用いた支援を続け、子どもの変化・変容を追う。

①気になる子の成長の手立てとなるエクササイズを選択し実践する。

②子どもの変化・変容を観察し、次のエクササイズを選択し実践する。